平成 24 年度　事務事業事後評価調書（平成　23　年度事業）

整理番号	5	ー	32

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	乳幼児医療費助成事業					
評価者	担当課名		保健福祉課	担当係名		社会福祉係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	山 崎 佳 之		氏名	渡 部 憲 一
事業の概要	６歳以下の子ども（小学校就学前）の医療費（医療保険適用分）を助成する。原則１割の自己負担があるが、非課税世帯の場合は自己負担を軽減する。また、３歳未満の子どもは初診時の一部負担金のみとする。所得制限有り。平成２０年１０月から対象年齢を拡大している。（小学校１学年から小学校６学年修了前の入院と訪問看護）					

全体計画	/単年度繰返	
（平成 20 年度～ 24 年度）		
事業費	国・道支出金	19,290 千円
	地方債	千円
	その他	千円
	一般財源	29,520 千円
	事業費計	48,810 千円

実施方法	■ 直営	□ 民間委託	□ その他（　　）
第５期 総合計画（前期）	■ 登載事業	□ 非登載事業	優先度 A

事業の位置付け			
政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
基本施策	8	子育ち・子育ての充実	
単位施策	3	少子化問題への対応	
事務事業の種類	■ 自治事務	□ 法定受託事務	
その他計画・根拠等	雄武町乳幼児等医療費助成に関する条例		

事業費	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
国・道支出金	2,068 千円	2,174 千円	1,847 千円	1,998 千円	3,285 千円
地方債	千円	千円	千円	千円	千円
その他財源	千円	千円	千円	56 千円	10 千円
雄武町負担額（一般財源）	2,161 千円	2,403 千円	1,940 千円	2,456 千円	12,475 千円
合計	4,229 千円	4,577 千円	3,787 千円	4,510 千円	15,770 千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	乳幼児及び小学生
【抱える課題やニーズは】	少子化が進む中、安心して子育てができるよう経済的負担の軽減において医療費の助成は町民からのニーズも高い。
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	経済的な負担を軽減することで、安心して子育てができる環境づくりを目指す。
【その結果、どのような成果を実現したいか】※成果＝目的	乳幼児の健康増進とその家族の経済的負担の軽減が図られる。

望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）

受給者数

指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
① 受給者数	目標年度	平成23年度
	目標値	310 名
	実績値	310 名
	達成度	100.0 %
②	目標年度	
	目標値	
	実績値	
	達成度	%

内容（どのような手段で何を行ったか）	
①申請、受給者証の発行	申請を受理し認定者へ受給者証を発行した。それを基に医療機関では対象者を判断し医療費を軽減した。
②医療費の支出	医療機関が軽減した医療費の請求書を支払基金及び国保連合会へ提出、その請求に基づき、支払基金及び国保連合会が医療費を一時負担して、後日、支払基金及び国保連合会から町へ請求され、支払処理を行った。

3 事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	■ 義務的なもの ■ 全部 □ 一部	北海道医療給付事業の一つである。子育て支援施策の一つとして、町民ニーズも高く、乳幼児等の健康保持と経済的負担を軽減するために必要性が高い事業である。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 ■ 達成 □ ほぼ達成 □ 下回る	子育て支援施策の一つとして、町民ニーズも高く、少子化対策として有効な事業である。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 □ 事業費抑制 □ 人員削減 ■ 時間短縮・作業軽減 □ その他	福祉医療システムを活用し、事務の効率化を図った。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □ 受益者負担がある □ 受益者負担がない □ 受益が一部に偏る ■ その他	条例に基づく医療費助成であり、受益が一部に偏ることはない。

4 総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
町民ニーズも高く、乳幼児等の健康保持及び子育て支援のためにも計画どおり進めることが必要な事業である。	同左	

今後の展開方向
（Action）

継続／拡充	**継続／拡充**	
乳幼児等に対する医療費の助成は疾病の早期診断と早期治療を促進し、更には少子化対策、子育て家庭支援の意味でも必要性が高く、小・中学生、高校生も含め、支援の拡大を図る。	同左	

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5 その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）

平成24年度から「子ども医療費助成事業」に事業名称を改め、対象範囲を拡大する。